

平成27年度施策評価調査書

整理番号	20
評価担当課	農務課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	農業担い手の育成と確保		
総合計画の位置づけ	基本目標		創造力と活力にあふれたまちづくり
	主要施策		農業・農村の振興

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	次世代を担う新規就農者(農家後継者・新規参入者)の確保対策及び、意欲と能力のある担い手を育成するために農業青年の活動を支援します。 また、農産加工や産直などに取り組む女性グループの自主的な活動を支援します。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	新たに就農する農業青年の研修費用の助成、就農準備に係る経費への助成 青年・女性グループの活動の支援
施策の課題	毎年新規就農者は確保されているが、地域の持続的な農業を進める上では十分とは言えない状況にあるため、法人化等多様な担い手の育成が今後必要となっている。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度 (年度)
新たな事業に取り組んだ件数	農業青年チャレンジ事業採択件数	目標値	3	3	3	3
		実績値	3	0	0	
		進捗率	100%	0%	0%	
新規就農定着率	就農開始から5年後に引き続き就農している人数	目標値	7	7	6	6
		実績値	5	5	5	
		進捗率	71%	71%	83%	
農業青年団体	農業青年活動支援事業の支援を受けて活動する団体	目標値	2	3	2	2
		実績値	2	3	2	
		進捗率	100%	100%	100%	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
B	新規就農者の確保は人的には十分とは言えないが、少子高齢化や厳しい農業情勢のもと着実に定着している。また、青年団体活動や新規事業への支援により、次世代を担う農業者の育成が概ね達成されていると判断した。	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

今後も、関係機関・団体の連携により引き続き担い手の育成に取り組む。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

目標を達成している点などから評価すると順調に推移していると判断できる。

8 2次評価の意見等

外部評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業 番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部 評価	2次 評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	新規就農者就農奨励事業	新規就農者への奨励と研修費等を支援する	2,460	a	a	a	a	a	A		
2	新規就農に関する助成事業	新規就農者の研修や就農時に必要な運転資金等へ助成	1,241	a	a	a	a	a	A		
3	農業青年チャレンジ事業	独自の農業経営にチャレンジする農業青年への支援	3,000	a	a	a	a	a	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

農村青年活動組織に対する支援
農産物加工施設の運営による女性加工グループの活動支援
地産地消費フェア等の開催による女性グループの交流・活動の場の提供

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	20	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	経済部農務課農政係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業担い手支援事業(新規就農者就農奨励事業)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	農業の担い手の育成と確保
		実施計画事業	1	担い手の育成

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	高度な知識・技術及び経営能力を備えた農業後継者の育成、確保をめざす。			
対象(何を又は誰を)	農業後継者			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	助成による就農の奨励と研修経費等を支援する。 農業後継者育成奨学金に対する補助(経過措置)。			
意図(どのような成果を期待しているか)	次代の地域農業を担う優秀な農業後継者を育成する。			
事業実施主体	農業後継者			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	19年度	終期設定	有(終期年度) 無
根拠法令・条例等	名寄市農業・農村振興条例			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1	事業実施件数	目標	9	10	8	7	41
			実績	9	10	8		
	2	実際に支援を行った事業件数	目標					
			実績					


(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	3,660	4,800	2,460	2,640	農業後継者育成奨学金を借り入れた者に対する補助 3件 660千円
国道支出金					
地方債		3,550			
その他	2,205	1,215	855	525	就農奨励金
一般財源	1,455	35	1,605	2,115	5件 1,800千円
人件費	2,005	1,989	1,989	1,989	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30	
総事業費	5,665	6,789	4,449	4,629	
対前年比(%)	—	120	66	104	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	629	679	556	総事業費/支援件数
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

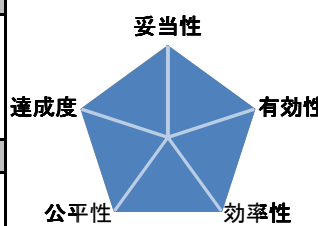
情勢の変化	農業者の高齢化と担い手不足が進む中、担い手の育成と確保は益々重要になってきている。
改善点	指摘事項 有 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	担い手の育成と確保は、地域農業に必須の課題でありニーズは高い。 今後の農業機関、団体、地域との役割を分担し、市としての責務を果たす必要がある。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	担い手の育成に直接的に貢献する事業であり有効な手段である。 過去に就農した者は、いずれも地域の担い手として活躍している。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	本事業の経費は主に補助金でありコスト削減は難しい。 また、類似事業がないため事業の統廃合も困難。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	対象は就農後きめられた年数が経過した就農者に限られるが、事業の趣旨からやむを得ない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	過去3年の成果指標は予定どおりになっている。。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	担い手の育成、確保は重要な課題であり、高い効果を得られる本事業は継続する必要がある。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	20	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	経済部農務課農政係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業担い手支援事業(新規就農に関する助成事業)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	農業の担い手の育成と確保
		実施計画事業	1	担い手の育成

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	農業・農村は高齢化、後継者不足の課題を抱えており、新規就農者に対し必要な支援を行うことで早期定着及び経営の安定化を図り、地域農業の担い手として育成を図る。			
対象(何を又は誰を)	新規就農者			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	就農までに必要な研修や就農時に必要な運転資金や初期投資等に対し助成する。			
意図(どのような成果を期待しているか)	地域農業の担い手確保のため、新規就農者の早期定着及び経営の安定化を図る。			
事業実施主体	新規就農者			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	19年度	終期設定	有(終期 28年度) ・ 無
根拠法令・条例等	名寄市新規就農者等に関する条例			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1	事業実施件数	目標	2	3	2	1	21
			実績	2	3	2		
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	1,208	2,406	1,241	42	新規就農者 1名2件 ・経営準備支援助成金 1,200千円 ・経営自立安定補助金 41千円
国道支出金					
地方債		2,400			
その他					
一般財源	1,208	6	1,241	42	
人件費	2,005	1,989	1,989	1,989	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30	
総事業費	3,213	4,395	3,230	2,031	
対前年比(%)	—	137	73	63	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	1,607	1,465	1,615	総事業費/支援件数
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	農業者の高齢化と担い手不足が進む中、担い手の育成と確保は益々重要になってきている。
改善点	指摘事項 有 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	担い手の育成と確保は、地域農業に必須の課題でありニーズは高い。 今後の農業機関、団体、地域との役割を分担し、市としての責務を果たす必要がある。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	新規就農者の育成に直接的に貢献する事業であり有効な手段である。 過去に就農した者は、いずれも地域の担い手として活躍している。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	本事業の経費は主に補助金でありコスト削減は難しい。 また、類似事業がないため事業の統廃合も困難。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	対象は新規就農者に限られるが、事業の趣旨からやむを得ない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	過去3年の成果指標は予定どおりになっている。。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	担い手の育成、確保は重要な課題であり、高い効果を得られる本事業は継続する必要がある。	
A:現状のまま継続	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
B:進め方を改善		
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)		

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	20	枝番	3
評価担当課・係・職名・氏名	経済部農務課農政係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業青年チャレンジ事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	農業の担い手の育成と確保
		実施計画事業	1	担い手の育成

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	農業後継者の営農意欲を喚起するとともに、経営感覚豊かな担い手の育成を図るため、独自の農業経営にチャレンジする農業青年に対し助成する。			
対象(何を又は誰を)	就農1年を経過している農家子弟等で40歳以下の者、または対象農家子弟等を複数含むグループ			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	農業青年が取組む新たな農業経営に対して助成する。			
意図(どのような成果を期待しているか)	営農意欲が高く経営感覚豊かな農業後継者の育成。			
事業実施主体	農業青年			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	19年度	終期設定	有(終期 28年度) ・ 無
根拠法令・条例等	名寄市農業・農村振興条例 農業青年チャレンジ事業補助金交付要綱			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 事業取組件数	件	目標	3	3	3	3	15
			実績	3	0	3		
	2	目標						
		実績						
成果指標	1 事業取組件数	件	目標	3	3	3	3	15
			実績	3	0	3		
	2	目標						
		実績						

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	2,800	0	3,000	3,000	補助金 3件 3,000千円 ①哺乳ロボット導入事業 ②トラスタフハウスによるホウレンソウ栽培及びナス科作物育苗事業 ③春堀人参事業
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	2,800	0	3,000	3,000	
人件費	668	331	663	663	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.10	0.05	0.10	0.10	
総事業費	3,468	331	3,663	3,663	
対前年比(%)	—	10	1,105	100	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	933	0	1,000	総事業費÷事業取組件数
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	農業者の高齢化と担い手不足が進む中、担い手の育成と確保は益々重要になってきている。
改善点	指摘事項 有 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	担い手の育成と確保は、地域農業に必須の課題でありニーズは高い。 今後の農業機関、団体、地域との役割を分担し、市としての責務を果たす必要がある。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	担い手の育成に直接的に貢献する事業であり有効な手段である。 過去に採択された農業青年は、いずれも地域の担い手として活躍している。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	本事業の経費は主に補助金でありコスト削減は難しい。 また、類似事業がないため事業の統廃合も困難。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	対象は農業青年に限られるが、事業の趣旨からやむを得ない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	過去3年の成果指標は66.6%であるが、事業内容を審査しての取り組みになるため成果に期待できる事業のみを採択している。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	担い手の育成、確保は重要な課題であり、高い効果を得られる本事業は継続する必要がある。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり